



全苗連だより

Vol. 24 (7月号)

平成28年7月29日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

全苗連東北・北海道地区協議会大会(総会)が開催されました 東北・北海道地区で永年貢献された前全苗連会長太田清藏氏に 感謝の記念品が贈呈されました

平成28年度全苗連東北・北海道地区協議会大会(総会)が、7月7日に福島県奥飯坂摺上亭大鳥を会場にして開催されました。

議事に入る前、東北・北海道地区の役員として永年貢献された前全苗連会長太田清藏氏に開催県の特産品である会津塗の記念品が贈呈されました。

議事では、所定の議案を原案通り可決・承認されるとともに次期会長に橋本健一氏(山形県山林種苗協同組合理事長)、副会長に花野英三郎氏(新潟県山林種苗協同組合理事長)及び野尻榮一氏(福島県農林種苗農業協同組合組合長)が選出されました。

翌日は、現地視察となり、南相馬市の上原樹苗並びに海岸林防災林造成地及び再来年の全国植樹祭会場予定地において、コンテナ苗の生産を中心に熱心な議論が交わされました。現地での議論の一部を掲載します。

【課題】

福島県内の海岸林防災林造成用苗であるクロマツ・アカマツ苗木の植栽時期と活着率並びに成長量の因果関係について、試験地を設け早期海岸林再生と苗木供給の平準化を目指す。

【試験の概要】

- ① コンテナで育成したクロマツ、アカマツの苗木を4月から1年間(12回)毎月(月の10日)それぞれ8本を植栽し、活着率、成長量の調査を行い、コンテナ苗は、通常のマツの植栽適期(4月～5月・9月～10月)にこだわらず植栽できる育種方法であることを検証する。
- ② 海岸林防災造成の完成が植栽時期により遅延することなくコンテナ苗の使用により、復興・復旧が加速する技術であることを検証する。
- ③ 海岸林防災林造成用苗として、アカマツの汀線からの距離について、気象や地形により異なることの知見を現地で検証する。

【中間報告】

- ①、②、③について、コンテナ苗の有為性が示されていました。

なお、活着率は、クロマツが95.83%、アカマツが95.83%となり、成長量は、試験期間が短く平成26年5月に植栽したクロマツの成長量は、95mm、アカマツの成長量は、143mmでした。

「技術情報」

カラマツ種苗の安定供給体制を強化 スギで播種一年以内に出荷できるコンテナ苗育成技術について ～関東地区特定母樹等普及促進会議から～

関東育種基本区に係る県苗組、県、県森連・森林組合・民間会社並びに全苗連、森林総合研究所、森林管理局署、林野庁(オブザーバー)で構成する関東地区特定母樹等普及促進会議(事務局;森林総合研究所林木育種センター)は、7月26、27日に長野県佐久市他で協議並びに現地検討を行いました。初日はカラマツに対する取組を中心に、特定母樹関連の報告・成果について、また、スギで播種一年以内に出荷できるコンテナ苗育成技術ほか育苗に係る情報交換等の室内協議を行い、翌日は現地で、カラマツ接ぎ木、カラマツ特定母樹の選定、カラマツ採種園で実施した環状剥皮について検討を行いました。

需要が急増しているカラマツの種苗安定供給のための技術開発として林木育種センターから、①長日・乾燥・高温・低温処理、環状剥皮またはスコアリング処理、受光伐等による光環境の改善、植物ホルモン処理、施肥処理による養分改善等による着花促進 ②採種時期の最適化、機械化による高効率化した採種技術による種子生産強化 ③コンテナを用いた挿木増殖による苗木生産強化への取り組み等の研究概要が示されました。

また、カラマツに係る採種園について関東森林管理局からは、15年前に廃止されていた田代第一採種園(群馬県)の今年2月の再設定、中部森林管理局からは、約30年間ほとんど整備されていなかった清万採種園(長野県)の再整備開始の説明がありました。

コンテナ苗育苗技術の開発では林木育種センター大平峰子氏からスギ特定母樹の実生を1年育成した結果、約70%が5号苗以上、JFA150のコンテナで育成した場合、形状比80程度との報告があり、要請にて当技術講習会も行う旨説明がありました。

全苗連・苗組の行事予定

- ～H29.3 ①コンテナ苗生産未経験者を対象とした研修会 ②コンテナ苗生産新規参入者を対象とした研修会 ③コンテナ苗生産経験者を対象とした巡回指導等 実施者;該当道県苗組
- 10月13日 全苗連生産者の集い(静岡県伊豆の国市・長岡総合会館AXISかつらぎ)
- 10月14日 全苗連生産者の集い・視察旅行(静岡県内)
- 11月17日 近畿地区林業用優良種苗需給調整協議会

